

# No.4 固定観念を覆す排泄ケア

特別養護老人ホーム 延寿

発表者：西田明美

排泄委員会 大内知子 笠川裕香子 中野純 道前淳子 中山慎也 永田可緒里 矢野寧奈 田中真輝

利用者：M様 男性  
左麻痺、陰茎が陥没しており尿量が多い  
ベッド上で生活することが多く、座位姿勢がとれない為、  
トイレに座る事ができない。



## 当時の課題

- ・おしりに床ずれがある。
- ・紙オムツ内に蒸れがある為、湿りでおしりの状態が良くなりず衛生的にもよくない。
- ・尿取りパットの当て方を見直す必要があり、M様の不快感を軽減するためにグループ内で尿取りパットや紙おむつの使用方法を再検討をするが解決に至らなかった。

## グループで検討し試してみた排泄アイテムの使用方法

吸収量の多いパットを採用していたが一度の尿量が多く吸収量を超えてしまうことがたびたび見られた。



吸収量の多いパットに加え、両面吸い取り形のパットを蛇腹状にして陰部に当ててみるが、四方に尿が漏れた。



うまくいかない

排泄委員会にこの悩みが待ちこまれたが委員会内でも決定的な提案が出せなかった為、パット類を購入しているメーカーに相談する事となった。

## メーカーはこの問題に対し3つの方法を提案してくれた

グループのスタッフはそれぞれの方法を試し、事細かに記録に残してどの方法がM様にふさわしいのかを探る事にした。

両面吸い取り形のパットを**貝殻状**にして陰部に当てる方法。  
しかし尿量に対応できなかった。



日中に使用

多少蒸れあるも  
全身更衣なし！

蒸れあい！  
横漏れあい！！  
全身更衣あい！！！！

両面吸い取り形のパットを**両サイドから丸めて陰部に装着**し容量がいっぱいになったら紙おむつに流れるよう配置。



この使い方が  
新しかった

夜間に使用

多少蒸れあるも  
全身更衣なし！

夜間は交換回数を減らし、お休みの妨げにならないよう、**軟便吸収用の大きなパット**を使用。



## 結果

試した案の中に尿失禁による更衣の回数が目に見えて少ない方法があった。再度グループ内で検討し、上記写真の二つの方法を採用する事となった。

## 今回の事案より得た事

- ・おしりの状態の悪化はなく陰部周りの蒸れが軽減されたことで、清潔維持が可能となる。清潔という観点からの不快感の軽減も大切であることに気づいた。
- ・メーカー提案の排泄アイテムの使い方は今まで施設内になかった方法であり、新たな知識、技術として他利用者にも応用できた。
- ・他利用者で陰部のパットを自身で取ってしまう方がおられたが、この当て方を採用したところ、そのような行為は見られなくなった。陰部の蒸れによる痒みがなくなり、パットを外す行為がなくなったと考えられる。